＜追補＞

ココデル虎の巻 模試［第 4 版］問題

2022 年 3 月改訂「試験問題の作成に関する手引き」対応

ここでは、2022 年 3 月に改訂された『試験問題作成に関する手引き』で、模擬試験に影響する設問や解説をまとめています。
第 1 回～第 3 回の模試を確認し、下記問題番号についてはこちらの追補にある問題と差し替えてください。

※関係する問題

【第 1 回】

第 1 章：問 2、問 3、問 11
第 2 章：問 27、問 34、問 35
第 3 章：問 50、問 55、問 71、問 74、問 80
第 4 章：問 87

【第 2 回】

第 1 章：問 2、問 11
第 2 章：問 37、問 38、問 40
第 3 章：問 53、問 54、問 57、問 61、問 65、問 75、問 76、問 77
第 4 章：問 82、問 88、問 99
第 5 章：問 109、問 111、問 116

【第 3 回】

第 1 章：問 2、問 3、問 8
第 2 章：問 26、問 33、問 35、問 37
第 3 章：問 42、問 51、問 57、問 66、問 73、問 76、問 79
第 4 章：問 87
第 5 章：問 118

※問題、解説ともに下線部が修正部分です。
※解説のみの修正であっても、掲載しています。

【第１回】問題

第１章

問２（※解説のみ修正）

医薬品に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

ａ 一般用医薬品は、一般の生活者が自ら選択し、使用するものであるため、添付文書や製品表示に記載された内容を見れば、効能・効果や副作用等について誤解や認識不足を生じることはない。

ｂ 医薬品は、市販後にも、医学・薬学等の新たな知見、使用成績等に基づき、その有効性、安全性等の確認が行われる仕組みになっており、それらの結果を踏まえ、リスク区分の見直し、承認基準の見直し等がなされている。

ｃ 医薬品は、人の生命や健康に密接に関連するものであるため、高い水準で均一な品質が保証されていなければならない。

ｄ 異物等の混入、変質等がある医薬品は、健康被害の発生の可能性がない場合であれば、販売することが認められる。

1. ａ．正　ｂ．正　ｃ．誤　ｄ．正
2. ａ．正　ｂ．誤　ｃ．正　ｄ．誤
3. ａ．正　ｂ．誤　ｃ．誤　ｄ．正
4. ａ．誤　ｂ．正　ｃ．正　ｄ．誤
5. ａ．誤　ｂ．誤　ｃ．正　ｄ．正

問 3

医薬品のリスク評価に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

ａ 現在では、新規に開発される医薬品のリスク評価は、医薬品開発の国際的な標準化（ハーモナイゼーション）制定の流れのなかで実施されている。
ｂ 動物実験により求められる LD50 は、薬物の有効性の指標として用いられる。
ｃ 少量の投与でも長期投与されれば慢性的な毒性が発現する場合もある。
ｄ ヒトを対象とした臨床試験の実施の基準として、国際的に Good Laboratory Practice（GLP）が制定されている。

1. ａ．正　ｂ．正　ｃ．誤　ｄ．正
2. ａ．正　ｂ．誤　ｃ．正　ｄ．誤
3. ａ．正　ｂ．誤　ｃ．誤　ｄ．正
4. ａ．誤　ｂ．正　ｃ．正　ｄ．誤
5. ａ．誤　ｂ．誤　ｃ．正　ｄ．誤

問 11

「医療用医薬品の添付文書等の記載要領の留意事項」において、目安として用いられる年齢区分に関する記述について、（　　）にあてはまる字句として正しいものの組み合わせを 1 つ選びなさい。

新生児とは（　ａ　）、幼児とは（　ｂ　）をいう。

1. ａ．生後 4 週未満　ｂ．1 歳以上、7 歳未満
2. ａ．生後 4 週未満　ｂ．生後 4 週以上、1 歳未満
3. ａ．生後 6 週未満　ｂ．1 歳以上、7 歳未満
4. ａ．生後 6 週未満　ｂ．生後 6 週以上 1 歳未満

第2章

問27

肛門に関する記述について、（　　）に入れるべき字句の正しい組み合わせはどれか。

肛門は、直腸粘膜が皮膚へと連なる体外への開口部である。直腸粘膜と皮膚の境目になる部分には（　a　）と呼ばれるギザギザの線がある。
肛門周囲は肛門括約筋で囲まれており、排便を意識的に調節することができる。また、（　b　）が細かい網目状に通っていて、肛門周囲の組織がうっ血すると痔の原因となる。

1. a．歯状線　　b．動脈
2. a．歯状線　　b．静脈
3. a．縫合線　　b．動脈
4. a．縫合線　　b．静脈

問34

鼻に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

a 食品からの嗅覚情報は、舌が受容した味覚情報と脳において統合され、風味として認識される。
b 鼻腔下部の粘膜にある特殊な神経細胞を、におい分子が刺激すると、その刺激が脳の嗅覚中枢へ伝えられる。
c においに対する感覚は非常に鋭敏であるが順応を起こしやすく、同じにおいを継続して嗅いでいると次第にそのにおいを感じなくなる。
d 副鼻腔は、鼻腔と異なり、線毛がない粘膜で覆われている。

1. a．正　　b．正　　c．誤　　d．正
2. a．正　　b．誤　　c．正　　d．誤
3. a．正　　b．誤　　c．誤　　d．正
4. a．誤　　b．正　　c．正　　d．誤
5. a．誤　　b．誤　　c．正　　d．正

問 35

骨格系に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

ａ 骨は生きた組織であるが、成長が停止した後は新陳代謝が行われない。
ｂ 骨髄で造血が行われるのは、骨盤と大腿骨のみである。
ｃ 骨の関節面は弾力性に富む柔らかな関節軟骨に覆われ、これが衝撃を和らげ、関節の動きを滑らかにしている。
ｄ 関節周囲を包む膜（滑膜）は軟骨の働きを助け、靭帯は骨を連結し、関節部を補強している。

1. ａ．正　ｂ．正　ｃ．誤　ｄ．正
2. ａ．正　ｂ．誤　ｃ．正　ｄ．誤
3. ａ．誤　ｂ．正　ｃ．誤　ｄ．正
4. ａ．誤　ｂ．誤　ｃ．正　ｄ．正
5. ａ．誤　ｂ．誤　ｃ．正　ｄ．誤

第 3 章

問 50

鎮咳去痰薬に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

ａ ゴミシは、オオバコ科のオオバコの種子のみを用いたものを基原とする生薬で、鎮咳作用を期待して用いられる。
ｂ オウヒは、バラ科のヤマザクラ、またはカスミザクラの樹皮を基原とする生薬で、去痰作用を期待して用いられる。
ｃ キキョウはキキョウ科のキキョウの果実を基原とする生薬で、たん、またはたんを伴うせきに用いられる。
ｄ セネガは去痰作用を期待して用いられるが、摂取により糖尿病の検査値に影響を生じることがある。

1. ａ．正　ｂ．正　ｃ．誤　ｄ．正
2. ａ．正　ｂ．誤　ｃ．正　ｄ．誤
3. ａ．正　ｂ．誤　ｃ．誤　ｄ．正
4. ａ．誤　ｂ．正　ｃ．誤　ｄ．正
5. ａ．誤　ｂ．誤　ｃ．正　ｄ．誤

問 55

止瀉薬に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

ａ 細菌感染による下痢の症状を鎮めることを目的として、ロペラミド塩酸塩が用いられる。
ｂ 腸管内の異常発酵等によって生じた有害な物質を吸着させることを目的として、炭酸カルシウム、カオリンや薬用炭などが用いられる。
ｃ ベルベリンは、生薬のオウバクやオウレンの中に存在する物質のひとつであり、抗菌作用のほか、抗炎症作用もあわせもつとされる。
ｄ 木クレオソートは、過剰な腸管の蠕動運動を正常化するが、水分や電解質の分泌を抑える作用はないとされる。

1. ａ．正　ｂ．正　ｃ．誤　ｄ．正
2. ａ．正　ｂ．誤　ｃ．正　ｄ．誤
3. ａ．誤　ｂ．正　ｃ．正　ｄ．誤
4. ａ．誤　ｂ．正　ｃ．誤　ｄ．正
5. ａ．誤　ｂ．誤　ｃ．正　ｄ．正

問 71

点眼薬に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

ａ 点眼の際に容器の先端がまぶたやまつげに触れると、雑菌が薬液に混入して汚染を生じる原因となるため、触れないように注意しながら一滴ずつ正確に点眼する。
ｂ 一度の点眼量が多いほうが効果が増す。
ｃ 点眼後は、しばらくまぶたを閉じて、薬液を結膜嚢内に行き渡らせる。その際、目尻を押さえると、薬液が鼻腔内へ流れ込むのを防ぐことができ、効果的とされる。
ｄ コンタクトレンズをしたままでの点眼は、ソフトコンタクトレンズ、ハードコンタクトレンズに関わらず、添付文書に使用可能と記載されてない限り行うべきではない。

1. ａ．正　ｂ．正　ｃ．誤　ｄ．正
2. ａ．正　ｂ．誤　ｃ．正　ｄ．誤
3. ａ．正　ｂ．誤　ｃ．誤　ｄ．正
4. ａ．誤　ｂ．正　ｃ．誤　ｄ．誤
5. ａ．誤　ｂ．誤　ｃ．正　ｄ．正

問 74

消毒薬に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

ａ ベンザルコニウム塩化物は石けんとの混合によって殺菌消毒効果が低下するので、石けんで洗浄した後に使用する場合には、石けんを十分に洗い流す必要がある。

ｂ 消毒用エタノールは、手指・皮膚の消毒、器具類の消毒のほか、皮膚刺激性が弱いため、脱脂綿やガーゼに浸して患部に貼付することで、創傷面の殺菌・消毒にも用いられることがある。

ｃ クロルヘキシジングルコン酸塩は、結核菌を含む一般細菌類、真菌類、ウイルスに対して殺菌消毒作用を示す。

ｄ イソプロピルメチルフェノールは、細菌や真菌類のタンパク質を変性させることにより殺菌消毒作用を示し、患部の化膿を防ぐことを目的として用いられる。

1. ａ．正　ｂ．正　ｃ．誤　ｄ．正
2. ａ．正　ｂ．誤　ｃ．正　ｄ．誤
3. ａ．正　ｂ．誤　ｃ．誤　ｄ．正
4. ａ．誤　ｂ．正　ｃ．正　ｄ．誤
5. ａ．誤　ｂ．誤　ｃ．正　ｄ．誤

問 80
一般用検査薬に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

ａ 生体から採取された検体には予期しない妨害物質や化学構造がよく似た物質が混在することがあり、いかなる検査薬においても偽陰性・偽陽性を完全に排除することは困難である。
ｂ 検査結果では尿糖や尿タンパクが陰性でも、何らかの症状がある場合は、再検査するかまたは医療機関を受診して医師に相談するなどの対応が必要である。
ｃ 採尿の仕方として、出始めの尿を採取して検査することが望ましい。
ｄ 妊娠検査薬の検査結果が陰性であっても月経の遅れが著しい場合には、擬陰性である（実際は妊娠している）可能性のほか、続発性無月経等の病気であるおそれもあり、医療機関を受診して専門医へ相談するなどの対応が必要である。

1. ａ．正　ｂ．正　ｃ．誤　ｄ．正
2. ａ．正　ｂ．誤　ｃ．正　ｄ．誤
3. ａ．正　ｂ．誤　ｃ．誤　ｄ．正
4. ａ．誤　ｂ．正　ｃ．正　ｄ．誤
5. ａ．誤　ｂ．誤　ｃ．正　ｄ．正

第 4 章

問 87（※解説のみ修正）
医薬品の表示事項に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

ａ 法定表示は、邦文または英文で記載しなければならない。
ｂ 当該医薬品に関し虚偽または誤解をまねくおそれのある事項は、記載されていても問題はない。
ｃ 法定表示として「重量、容量又は個数等の内容量」があげられる。
ｄ 法定表示として「製造業者の氏名又は名称及び住所」があげられる。

1. ａ．正　ｂ．正　ｃ．誤　ｄ．正
2. ａ．正　ｂ．誤　ｃ．正　ｄ．誤
3. ａ．誤　ｂ．正　ｃ．誤　ｄ．正
4. ａ．誤　ｂ．誤　ｃ．正　ｄ．正
5. ａ．誤　ｂ．誤　ｃ．正　ｄ．誤

【第２回】問題

第１章

問２

医薬品のリスク評価に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

ａ 医薬品の効果とリスクは、用量と作用強度の関係（用量－反応関係）に基づいて評価される。

ｂ 非臨床試験における安全性の基準は、Good Manufacturing Practice（GMP）である。

ｃ ヒトを対象とした臨床試験の実施の基準には、国際的にGVP（Good Vigilance Practice）が制定されている。

ｄ 製造販売後安全管理基準としてGood Vigilance Practice（GVP）が制定されている。

1. ａ．正　ｂ．正　ｃ．誤　ｄ．正
2. ａ．正　ｂ．誤　ｃ．正　ｄ．誤
3. ａ．正　ｂ．誤　ｃ．誤　ｄ．正
4. ａ．誤　ｂ．正　ｃ．正　ｄ．誤
5. ａ．誤　ｂ．誤　ｃ．正　ｄ．正

問 11

小児に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

ａ 「医療用医薬品の添付文書等の記載要領の留意事項」において、幼児という場合には、おおよその目安として生後 4 週以上、1 歳未満を指す。

ｂ 錠剤、カプセル剤等は、小児にそのまま飲み下させることが難しいことが多いため、15 歳未満に使用される錠剤やカプセル剤などの医薬品では、服用時にのどにつかえやすいので注意するよう添付文書に記載されている。

ｃ 一般に乳幼児は、容態が変化した場合に、自分の体調を適切に伝えることが難しいため、医薬品を使用した後は、保護者等が乳幼児の状態をよく観察することが重要である。

ｄ 小児の誤飲・誤用事故を未然に防止するには、家庭内において、小児が容易に手に取れる場所や、小児の目につく場所に医薬品を置かないようにすることが重要である。

1. ａ．正　ｂ．正　ｃ．誤　ｄ．正
2. ａ．正　ｂ．誤　ｃ．正　ｄ．誤
3. ａ．正　ｂ．誤　ｃ．誤　ｄ．正
4. ａ．誤　ｂ．正　ｃ．正　ｄ．誤
5. ａ．誤　ｂ．誤　ｃ．正　ｄ．正

第2章

問37

薬がはたらく仕組みに関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

ａ 内服した医薬品が全身作用を現すまでにはある程度の時間が必要であるのに対し、局所作用は医薬品の適用部位が作用部位である場合が多いため、反応は比較的速やかに現れる。

ｂ 錠剤やカプセル剤の場合、胃で有効成分が溶出するものが大部分で、有効成分は主に小腸で吸収される。

ｃ 消化管からの吸収の大部分は、濃度の低い方から高いほうへ、濃度勾配に逆らって医薬品成分が移動する現象である。

ｄ 坐剤は、有効成分が容易に循環血液中に入るため、内服の場合よりも全身作用が速やかに現れる。

1. ａ．正　ｂ．正　ｃ．誤　ｄ．正
2. ａ．正　ｂ．誤　ｃ．正　ｄ．誤
3. ａ．正　ｂ．誤　ｃ．誤　ｄ．正
4. ａ．誤　ｂ．正　ｃ．正　ｄ．誤
5. ａ．誤　ｂ．誤　ｃ．正　ｄ．正

問 38（※解説のみ修正）

薬の生体内運命に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

ａ 経口投与後、消化管で吸収された有効成分は、全身循環に入る前に門脈という血管を経由して肝臓を通過するため、吸収された有効成分は、肝臓で代謝を受けた分だけ少なくなる。これを肝初回通過効果という。

ｂ 医薬品の代謝などが行われるのは、肝臓以外にないことが明らかにされている。

ｃ 循環血液中に移行した有効成分は、血液中で血漿タンパク質と結合して複合体を形成しており、複合体のままでは代謝を受けたり、トランスポーターで輸送されたりしないため、血中濃度の低下が徐々に起こる。

ｄ 有効成分は未変化体や代謝物として排出される。排出は、尿、胆汁で行われ、呼気や汗、母乳などへの排出は認められていない。

1. ａ．正　ｂ．正　ｃ．誤　ｄ．正
2. ａ．正　ｂ．誤　ｃ．正　ｄ．誤
3. ａ．正　ｂ．誤　ｃ．誤　ｄ．正
4. ａ．誤　ｂ．正　ｃ．誤　ｄ．誤
5. ａ．誤　ｂ．誤　ｃ．正　ｄ．正

問 40（※解説のみ修正）

副作用に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

ａ 無菌性髄膜炎は、髄膜炎のうち、髄液に細菌・真菌・ウイルスが検出されないものをいい、大部分は医薬品の副作用によって生じる。

ｂ イレウス様症状は、小児や高齢者のほか、普段から便秘傾向のある人で発症のリスクが高い。

ｃ 間質性肺炎は、肺の中で肺胞と毛細血管を取り囲んで支持している組織の間質が炎症を起こしたもので、症状として、たんの多いせきが起こることが特徴である。

ｄ 光線過敏症の症状は医薬品が触れた皮膚の部分にのみ生じ、正常な皮膚との境界がはっきりしているのが特徴である。

1. ａ．正　ｂ．正　ｃ．誤　ｄ．正
2. ａ．正　ｂ．誤　ｃ．正　ｄ．誤
3. ａ．正　ｂ．誤　ｃ．誤　ｄ．正
4. ａ．誤　ｂ．正　ｃ．誤　ｄ．誤
5. ａ．誤　ｂ．誤　ｃ．正　ｄ．正

第３章

問 53（※解説のみ修正）

口腔咽喉薬に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

ａ 含嗽薬の使用後すぐに食事を摂ると、殺菌消毒効果が薄れやすい。
ｂ トローチ剤やドロップ剤は、噛んだあと、水で飲み込むことが重要である。
ｃ 噴射式の液剤では、軽く息を吸いながら噴射することが望ましい。
ｄ 含嗽薬は、水で用時希釈または溶解して使用するものが多いが、調製した濃度が濃すぎても薄すぎても効果が十分得られない。

1. ａ．正　ｂ．正　ｃ．誤　ｄ．正
2. ａ．正　ｂ．誤　ｃ．正　ｄ．誤
3. ａ．正　ｂ．誤　ｃ．誤　ｄ．正
4. ａ．誤　ｂ．正　ｃ．正　ｄ．誤
5. ａ．誤　ｂ．誤　ｃ．正　ｄ．正

問 54

口腔咽喉薬に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

ａ クロルヘキシジン塩酸塩は比較的安全な成分で、口腔咽喉薬や含嗽薬の配合成分として使用された場合であれば、全身性の重篤な副作用を生じることはない。
ｂ クロルヘキシジングルコン酸塩が配合された含嗽薬については、口腔内に傷やひどいただれのある人では、強い刺激を生じるおそれがあるため、使用を避ける必要がある。
ｃ ヨウ素は、レモン汁やお茶などに含まれるビタミンＣ等の成分と反応すると脱色を生じて殺菌作用が失われるため、ヨウ素系殺菌消毒成分が配合された含嗽薬では、そうした食品を摂取した直後の使用や混合は避けることが望ましい。
ｄ ヨウ素は血液-胎盤関門を通過しないため、ヨウ素配合の含嗽薬などが胎児に悪影響を与えることがない。

1. ａ．正　ｂ．正　ｃ．誤　ｄ．正
2. ａ．正　ｂ．誤　ｃ．正　ｄ．誤
3. ａ．正　ｂ．誤　ｃ．誤　ｄ．正
4. ａ．誤　ｂ．正　ｃ．正　ｄ．誤
5. ａ．誤　ｂ．誤　ｃ．正　ｄ．正

問 57

漢方処方製剤に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

ａ 安中散は、体力中等度以下で、腹部は力がなくて、胃痛又は腹痛があって、ときに胸やけや、げっぷ、胃もたれ、食欲不振、吐きけ、嘔吐などを伴うものの神経性胃炎、慢性胃炎、胃腸虚弱に適するとされる。

ｂ 平胃散は、体力中等度以下で、胃腸が弱く、食欲がなく、みぞおちがつかえて疲れやすく、貧血性で手足が冷えやすいものの胃炎、胃腸虚弱、胃下垂、消化不良、食欲不振、胃痛、嘔吐に適すとされる。まれに重篤な副作用として、肝機能障害を生じることが知られている。

ｃ 人参湯（理中丸）は、体力虚弱で、疲れやすくて手足などが冷えやすいものの胃腸虚弱、下痢、嘔吐、胃痛、腹痛、急・慢性胃炎に適すとされる。

ｄ 六君子湯は、体力中等度以上で、胃がもたれて消化が悪く、ときに吐き気、食後に腹が鳴って下痢の傾向のある人における食べすぎによる胃のもたれ、急・慢性胃炎、消化不良、食欲不振に適すとされる。

1. ａ．正　ｂ．正　ｃ．誤　ｄ．正
2. ａ．正　ｂ．誤　ｃ．正　ｄ．誤
3. ａ．正　ｂ．誤　ｃ．誤　ｄ．正
4. ａ．誤　ｂ．正　ｃ．正　ｄ．誤
5. ａ．誤　ｂ．誤　ｃ．正　ｄ．正

問 61
瀉下薬に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

ａ センナ中に存在するセンノシドは、胃や小腸で消化されないが、大腸に生息する腸内細菌によって分解され、分解生成物が大腸を刺激して瀉下作用をもたらすと考えられている。
ｂ ダイオウ、ビサコジルについては、吸収された成分の一部が乳汁中に移行することが知られ、乳児に下痢を生じるおそれがあるため、母乳を与える女性では使用を避けるか、または使用期間中の授乳を避けるよう、使用上の注意が記載される。
ｃ ビサコジルの腸溶製剤の場合、牛乳を飲んでからすぐに服用することとされている。
ｄ ビサコジルは、結腸での水分の吸収を抑えて、糞便のかさを増大させるはたらきもあるとされる。

1. ａ．正　ｂ．正　ｃ．誤　ｄ．正
2. ａ．正　ｂ．誤　ｃ．正　ｄ．誤
3. ａ．正　ｂ．誤　ｃ．誤　ｄ．正
4. ａ．誤　ｂ．正　ｃ．誤　ｄ．誤
5. ａ．誤　ｂ．誤　ｃ．正　ｄ．正

問 65
強心薬に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

ａ センソは、ヒキガエル科のアジアヒキガエル等の耳腺の分泌物を集めたものを基原とする生薬で、微量で強い強心作用を示す。
ｂ センソが配合された丸薬、錠剤等の内服固形製剤は、口中で噛み砕いて服用することとされている。
ｃ ゴオウは、ウシ科のウシの腸内に生じた結石を基原とする生薬で、強心作用のほか、末梢血管の拡張による血圧降下、興奮を静める等の作用があるとされる。
ｄ リュウノウの主要な物質はボルネオールで、中枢神経系の刺激作用による気つけの効果を期待して用いられる。

1. ａ．正　ｂ．正　ｃ．誤　ｄ．正
2. ａ．正　ｂ．誤　ｃ．正　ｄ．誤
3. ａ．正　ｂ．誤　ｃ．誤　ｄ．正
4. ａ．誤　ｂ．正　ｃ．正　ｄ．誤
5. ａ．誤　ｂ．誤　ｃ．正　ｄ．正

問 75

点眼薬に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

a ネオスチグミンメチル硫酸塩は、コリンエステラーゼのはたらきを高める作用を示し、目の調節機能を改善する効果を目的として用いられる。

b 結膜を通っている血管を収縮させて目の充血を除去することを目的として、ナファゾリン塩酸塩、テトラヒドロゾリン塩酸塩等が配合されている場合がある。

c プラノプロフェンは非ステロイド性抗炎症成分であり、炎症の原因となる物質の生成を抑える作用を示し、目の炎症を改善する効果を期待して用いられる。

d イプシロン-アミノカプロン酸は、眼粘膜のタンパク質と結合して皮膜を形成し、外部の刺激から保護する作用を期待して用いられる。

1. a．正　b．正　c．誤　d．正
2. a．正　b．誤　c．正　d．誤
3. a．正　b．誤　c．誤　d．正
4. a．誤　b．正　c．正　d．誤
5. a．誤　b．誤　c．正　d．正

問 76

殺菌消毒薬に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

a ヨウ素系殺菌消毒成分について、ヨウ素の殺菌力はアルカリ性になると低下するため、石けん等と併用する場合には、石けん分をよく洗い落としてから使用するべきである。

b ポビドンヨードは、ヨウ素をポリビニルピロリドンと呼ばれる担体に結合させて水溶性とし、徐々にヨウ素が遊離して殺菌作用を示すように工夫されたものである。

c ベンザルコニウム塩化物は、石けんとの混合によって殺菌消毒効果が増強してしまうので、石けんで洗浄した後に使用する場合には、石けんを十分に洗い流す必要がある。

d オキシドール（過酸化水素水）は、刺激性があるため、目の周りへの使用は避ける必要がある。

1. a．正　b．正　c．誤　d．正
2. a．正　b．誤　c．正　d．誤
3. a．正　b．誤　c．誤　d．正
4. a．誤　b．正　c．正　d．誤
5. a．誤　b．誤　c．正　d．正

問 77（※解説のみ修正）

水虫に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

ａ 水虫は、スリッパやタオルなどを介して、他の保菌者やペットから皮膚糸状菌が感染することも多い。

ｂ 角質増殖型の水虫の感染巣は硬く、亀裂ができることがある。また、強い痒みがあることが多い。

ｃ 一般的に、じゅくじゅくと湿潤している患部には、液剤が適すとされる。また、皮膚が厚く角質化している部分にも、液剤が適している。

ｄ イミダゾール系抗真菌成分は、皮膚糸状菌の細胞膜を構成する成分の産生を妨げたり、細胞膜の透過性を変化させることにより、その増殖を抑える。

1. ａ．正　ｂ．正　ｃ．誤　ｄ．正
2. ａ．正　ｂ．誤　ｃ．正　ｄ．誤
3. ａ．正　ｂ．誤　ｃ．誤　ｄ．正
4. ａ．誤　ｂ．正　ｃ．正　ｄ．誤
5. ａ．誤　ｂ．誤　ｃ．正　ｄ．正

第4章

問82

登録販売者の資格と販売従事申請に関する次の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

ａ 登録販売者は、法第4条第5項第1号において「法第36条の8第2項の登録を受けた者をいう」と規定されている。

ｂ 医薬品の販売又は授与に従事しようとするものは、都道府県知事の登録を受けなければならない。

ｃ 2カ所以上の都道府県で試験に合格した場合、試験に合格したすべての都道府県で販売従事登録ができる。

ｄ 申請者が精神の機能の障害により業務を適正に行うに当たって必要な認知、判断及び意思疎通を適切に行うことができないおそれがある者である場合、登録申請には、申請者に係る精神の機能の障害に関する医師の診断書が必要である。

1. ａ．正　ｂ．正　ｃ．誤　ｄ．正
2. ａ．正　ｂ．正　ｃ．正　ｄ．誤
3. ａ．正　ｂ．誤　ｃ．誤　ｄ．正
4. ａ．誤　ｂ．誤　ｃ．正　ｄ．正
5. ａ．誤　ｂ．正　ｃ．正　ｄ．誤

問88

医薬品の法定表示事項として、正しいものの組み合わせはどれか。

ａ 製造販売業者等の氏名又は名称及び住所

ｂ 要指導医薬品の文字

ｃ 用法用量

ｄ 配置販売品目の一般用医薬品にあっては、「配置専用」の文字

1. （ａ、ｂ）
2. （ａ、ｃ）
3. （ｂ、ｃ）
4. （ｂ、ｄ）
5. （ｃ、ｄ）

問 99

特定販売に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

ａ 特定販売とは、その薬局や店舗における、その薬局や店舗以外の場所にいる者に対する一般用医薬品、薬局製造販売医薬品（毒薬及び劇薬であるものを除く）の販売・授与のことをいう。

ｂ 特定販売を行うことについて広告をするときは、インターネットを利用する場合は、ホームページに、一般用医薬品の陳列の状況を示す写真を見やすく表示する必要がある。

ｃ 特定販売を行うことについて広告をするときは、インターネットを利用する場合は、ホームページに、現在勤務している薬剤師または第 15 条第 2 項本文に規定する登録販売者以外の登録販売者若しくは同項本文に規定する登録販売者の別及びその氏名、住所を見やすく表示する必要がある。

ｄ 特定販売を行う場合、一般用医薬品を購入しようとする者等から、対面または電話により相談応需の希望があった場合には、薬局開設者または店舗販売業者は、その薬局や店舗において医薬品の販売に従事する薬剤師・登録販売者に、対面または電話により情報提供を行わせなければならない。

1. ａ．正　ｂ．正　ｃ．誤　ｄ．正
2. ａ．正　ｂ．誤　ｃ．正　ｄ．誤
3. ａ．正　ｂ．誤　ｃ．誤　ｄ．正
4. ａ．誤　ｂ．正　ｃ．正　ｄ．誤
5. ａ．誤　ｂ．誤　ｃ．正　ｄ．正

第5章

問109

製品表示に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

ａ 使用期限の表示については、適切な保存条件の下で製造後2年を超えて性状及び品質が安定であることが確認されている医薬品において法的な表示義務はない。
ｂ 使用期限の表示については、配置販売される医薬品では、「配置期限」として記載される場合がある。
ｃ 表示された「使用期限」は、開封状態で保管された場合に品質が保持される期限である。

1. ａ．正　ｂ．正　ｃ．誤
2. ａ．正　ｂ．誤　ｃ．正
3. ａ．誤　ｂ．正　ｃ．正
4. ａ．誤　ｂ．正　ｃ．誤
5. ａ．誤　ｂ．誤　ｃ．正

問111（※解説のみ修正）

総合機構ホームページの掲載内容として、正しいものの組み合わせはどれか。

ａ 製造販売業者等や医療機関等から報告された、医薬品による副作用が疑われる症例情報
ｂ 新医薬品の売上高情報
ｃ 医薬品等の製品回収に関する情報
ｄ 厚生労働省が医薬品等の安全性について発表していない資料

1. （ａ、ｂ）
2. （ａ、ｃ）
3. （ｂ、ｃ）
4. （ｂ、ｄ）
5. （ｃ、ｄ）

問 116

救済給付の請求にあたって必要な書類に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

ａ　医師の診断書が必要である。
ｂ　要した医療費を証明する受診証明書が必要である。
ｃ　医薬品を販売等した専門家（薬剤師、登録販売者）の作成した販売証明書等が必要である。

1. ａ．正　　ｂ．正　　ｃ．正
2. ａ．正　　ｂ．正　　ｃ．誤
3. ａ．正　　ｂ．誤　　ｃ．誤
4. ａ．誤　　ｂ．正　　ｃ．正
5. ａ．誤　　ｂ．誤　　ｃ．正

【第 3 回】問題

第 1 章

問 2

医薬品のリスク評価に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

ａ 医薬品の効果とリスクは、用量と作用強度の関係（用量－反応関係）に基づいて評価される。

ｂ 投与量と効果または毒性の関係は、薬物用量を増加させるに伴い、効果の発現が検出されない「無作用量」から、最小有効量を経て「治療量」に至る。

ｃ 治療量上限を超えると、効果よりも有害反応が強く発現する「最小致死量」となり、「中毒量」を経て、「致死量」に至る。

ｄ 少量の医薬品の投与では、発がん作用、胎児毒性や組織・臓器の機能不全を生じることはない。

1. ａ．正　ｂ．正　ｃ．誤　ｄ．誤
2. ａ．正　ｂ．正　ｃ．誤　ｄ．正
3. ａ．正　ｂ．誤　ｃ．正　ｄ．誤
4. ａ．誤　ｂ．正　ｃ．誤　ｄ．誤
5. ａ．誤　ｂ．誤　ｃ．正　ｄ．正

問 3

医薬品の安全性に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

ａ 医薬品の安全性に関する非臨床試験の基準として、Good Clinical Practice（GCP）がある。

ｂ ヒトを対象とした臨床試験の実施の基準として、国際的に Good Laboratory Practice（GLP）が制定されている。

ｃ 製造販売後の調査及び試験の実施基準として、Good Post-marketing Study Practice（GPSP）が制定されている。

ｄ 医薬品については、食品と同等の厳しい安全性基準が要求されている。

1. ａ．正　ｂ．正　ｃ．正　ｄ．正
2. ａ．正　ｂ．正　ｃ．誤　ｄ．正
3. ａ．正　ｂ．正　ｃ．誤　ｄ．誤
4. ａ．誤　ｂ．誤　ｃ．正　ｄ．正
5. ａ．誤　ｂ．誤　ｃ．正　ｄ．誤

問 8

「医療用医薬品の添付文書等の記載要領の留意事項」において、乳児、小児という場合のおおよその目安として用いられている年齢区分について、正しい組み合わせはどれか。

乳児　・・・　小児

1. 生後 4 週未満　・・・3 歳以上、15 歳未満
2. 生後 4 週未満　・・・7 歳以上、15 歳未満
3. 生後 4 週以上 1 歳未満　・・・3 歳以上、15 歳未満
4. 生後 4 週以上 1 歳未満　・・・7 歳以上、15 歳未満
5. 生後 4 週以上 3 歳未満　・・・7 歳以上、18 歳未満

第２章

問 26

目に関する記述について、正しいものの組み合わせはどれか。

ａ 角膜と水晶体の間は、組織液（房水）で満たされ、眼内に一定の圧（眼圧）を生じさせている。

ｂ 水晶体は、近くの物を見るときには扁平になり、遠くの物を見るときには丸く厚みが増す。

ｃ 視細胞が光を感じる反応にはビタミンＡが不可欠であるため、ビタミンＡが不足すると夜間視力の低下（夜盲症）を生じる。

ｄ 目の充血は血管が拡張して赤く見える状態であるが、強膜が充血したときは、白目の部分だけでなく眼瞼の裏側も赤くなる。

1. （ａ、ｂ）
2. （ａ、ｃ）
3. （ｂ、ｄ）
4. （ｃ、ｂ）

問 33

医薬品の有効成分の吸収とその作用に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

ａ 内服薬の中には、服用後の作用を持続させるため、有効成分がゆっくりと溶出するように作られているものがある。

ｂ 一般に、消化管からの医薬品成分の吸収は、濃度の高い方から低い方へ受動的に拡散していく現象である。

ｃ 坐剤は、肛門に挿入すると S 状結腸で溶け、有効成分が容易に循環血液中に入るため、内服の場合よりも全身作用が速やかに現れる。

ｄ 皮膚に適用する医薬品（塗り薬、貼り薬等）は、皮膚表面から循環血液中へ移行する有効成分の量が比較的少ないため、適用部位の面積（使用量）や使用回数、その頻度などにかかわらず全身作用が現れることはない。

1. ａ．正　ｂ．正　ｃ．正　ｄ．正
2. ａ．正　ｂ．正　ｃ．正　ｄ．誤
3. ａ．誤　ｂ．誤　ｃ．正　ｄ．正
4. ａ．正　ｂ．正　ｃ．誤　ｄ．誤
5. ａ．誤　ｂ．誤　ｃ．誤　ｄ．誤

問 35

医薬品の剤形に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

ａ 口腔内崩壊錠は、口の中の唾液で速やかに溶ける工夫がなされているため、水なしで服用することができる。

ｂ チュアブル錠は、口の中で舐めたり噛み砕いたりして服用する剤形であり、水なしでも服用できる。

ｃ カプセル剤は水なしで服用するとゼラチンが喉のどや食道に貼り付くことがあるため、必ず適切な量の水（又はぬるま湯）とともに服用する。

ｄ 一般的には、適用する部位の状態に応じて、適用部位を水から遮断したい場合にはクリーム剤を用い、患部が乾燥していたり患部を水で洗い流したい場合等には軟膏剤を用いることが多い。

1. ａ．正　ｂ．正　ｃ．正　ｄ．正
2. ａ．正　ｂ．正　ｃ．正　ｄ．誤
3. ａ．誤　ｂ．誤　ｃ．正　ｄ．正
4. ａ．正　ｂ．誤　ｃ．誤　ｄ．誤
5. ａ．誤　ｂ．誤　ｃ．誤　ｄ．誤

問 37

偽アルドステロン症に関する記述について、正しいものの組み合わせはどれか。

ａ 体内にカリウムと水が貯留し、体からナトリウムが失われることによって生じる病態である。

ｂ 副腎皮質からのアルドステロン分泌が増加することにより生じる。

ｃ 主な症状に、筋肉痛、のどの渇き、手足の脱力、血圧上昇等が見られる。

ｄ 低身長、低体重など体表面積が小さい者や高齢者で生じやすい。

1. （ａ、ｂ）
2. （ａ、ｄ）
3. （ｂ、ｃ）
4. （ｃ、ｄ）

第3章

問42

かぜ薬に配合されている成分とその配合成分の組み合わせとして、誤っているものはどれか。

【成分】・・・・・・・・・・・・【配合目的】

1. メキタジン・・・・・・・・・・・くしゃみや鼻汁を抑える。
2. ジヒドロコデインリン酸塩・・・せきを抑える。
3. トラネキサム酸・・・・・・・・・発熱を鎮め、痛みを和らげる。
4. グリチルリチン酸二カリウム・・炎症による腫れを和らげる。

問51

口腔咽頭薬およびうがい薬（含嗽薬）に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

a ポビドンヨードは外用薬として使う場合も、含嗽薬として用いられる場合と同じ濃度で配合されているため、口腔粘膜の傷に外用薬を適用しても問題はない。
b クロルヘキシジングルコン酸塩が配合された含嗽薬については、口腔内に傷やひどいただれのある人では、強い刺激を生じるおそれがあるため、使用を避ける必要がある。
c 噴射式の液剤では、息を吸いながら噴射する。
d ヨウ素は、レモン汁やお茶などに含まれるビタミンC等の成分と反応すると殺菌作用が増強される。

1. a．正　b．正　c．誤　d．誤
2. a．正　b．誤　c．正　d．正
3. a．誤　b．正　c．正　d．誤
4. a．誤　b．正　c．誤　d．誤
5. a．正　b．誤　c．正　d．正

問 57（※解説のみ修正）

強心薬の配合成分に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

ａ ジャコウは、シカ科のジャコウジカの雄の麝香腺（じゃこうせん）分泌物を基原とする生薬で、強心作用のほか、呼吸中枢を刺激して呼吸機能を高めたり、意識をはっきりさせる等の作用があるとされる。

ｂ ゴオウは、ウシ科のウシの胆嚢中に生じた結石を基原とする生薬で、強心作用のほか、末梢血管の拡張による血圧降下、興奮を静める等の作用があるとされる。

ｃ ロクジョウは、中枢神経系の刺激作用による気つけの効果を期待して用いられる。

ｄ シンジュは、ウグイスガイ科のアコヤガイ、シンジュガイまたはクロチョウガイ等の外套膜（がいとうまく）組成中に、病的に形成された顆粒状物質を基原とする生薬で、鎮静作用等を期待して用いられる。

1. ａ．正　ｂ．正　ｃ．誤　ｄ．誤
2. ａ．正　ｂ．誤　ｃ．正　ｄ．正
3. ａ．誤　ｂ．正　ｃ．正　ｄ．誤
4. ａ．誤　ｂ．誤　ｃ．誤　ｄ．正
5. ａ．正　ｂ．正　ｃ．誤　ｄ．正

問 66

眼科用薬に関する記述について、正しいものの組み合わせはどれか。

ａ ネオスチグミンメチル硫酸塩は、コリンエステラーゼのはたらきを抑える作用を示し、毛様体におけるアセチルコリンのはたらきを助けることで、目の調節機能を改善する効果を目的として用いられる。

ｂ アレルギー用点眼薬は、抗菌成分が配合され、結膜炎（はやり目）やものもらい（麦粒腫：ばくりゅうしゅ）、眼瞼炎（がんけんえん：まぶたのただれ）等に用いられるものである。

ｃ 点眼後は、しばらく眼瞼（まぶた）を閉じて、薬液を結膜嚢（けつまくのう）内に行き渡らせる。その際、目頭を押さえると、薬液が鼻腔内へ流れ込むのを防ぐことができ、効果的とされる。

ｄ 結膜や角膜の乾燥を防ぐことを目的として、アスパラギン酸カリウムが配合されている。

1. （ａ、ｃ）
2. （ａ、ｄ）
3. （ｂ、ｃ）
4. （ｂ、ｄ）
5. （ｃ、ｄ）

問 73

滋養強壮保健薬の配合成分に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

ａ システインは、髪や爪、肌などに存在するアミノ酸の一種である。

ｂ アミノエチルスルホン酸（タウリン）は、生体におけるエネルギーの産生効率を高めるとされ、骨格筋に溜まった乳酸の分解を促すはたらきを期待して用いられる。

ｃ カルシウムは骨や歯の形成に必要な栄養素であり、筋肉の収縮、血液凝固、神経機能にも関与する。

ｄ ヘスペリジンはビタミン様物質のひとつで、ビタミンＣの吸収を助ける等の作用があるとされ、かぜ薬等にも配合されている場合がある。

1. ａ．正　ｂ．正　ｃ．誤　ｄ．誤
2. ａ．正　ｂ．誤　ｃ．誤　ｄ．正
3. ａ．正　ｂ．誤　ｃ．正　ｄ．正
4. ａ．誤　ｂ．誤　ｃ．正　ｄ．正
5. ａ．誤　ｂ．正　ｃ．誤　ｄ．誤

問 76

生薬に関する以下の記述について、正しいものの組み合わせはどれか。

ａ ブクリョウは、サルノコシカケ科のマツホドの菌核で、通例、外層をほとんど除いたものを基原とする生薬で、利尿、健胃、鎮静等の作用を期待して用いられる。

ｂ レンギョウは、モクセイ科のレンギョウの果実を基原とする生薬で、鎮痛、抗菌等の作用を期待して用いられる。

ｃ カッコンは、キンポウゲ科のハナトリカブトまたはオクトリカブトの塊根（かいこん）を減毒加工して製したものを基原とする生薬で、心筋の収縮力を高めて血液循環を改善する作用をもつ。

ｄ ブシは、マメ科のクズの周皮を除いた根を基原とする生薬で、解熱、鎮痙等の作用を期待して用いられる。

1. （ａ、ｂ）
2. （ａ、ｄ）
3. （ｂ、ｃ）
4. （ｂ、ｄ）
5. （ｃ、ｄ）

問 79

一般検査薬に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

ａ 尿中のタンパク値に異常を生じる要因については、腎臓機能障害によるものとして腎性糖尿、尿路に異常が生じたことによるものとして膀胱炎等がある。

ｂ 検体中に存在していないにもかかわらず、検査対象外の物質と非特異的な反応が起こって検査結果が陽性となった場合を偽陽性という。

ｃ 尿糖検査の場合は食前に採尿を行い、尿タンパクの場合は原則として早朝尿を検体とする。

ｄ 通常、尿は弱酸性であるが、食事その他の影響で中性から弱アルカリ性に傾くと、正確な検査結果が得られなくなることがある。

1. ａ．正　ｂ．正　ｃ．誤　ｄ．誤
2. ａ．正　ｂ．正　ｃ．誤　ｄ．正
3. ａ．正　ｂ．誤　ｃ．正　ｄ．誤
4. ａ．誤　ｂ．誤　ｃ．誤　ｄ．正
5. ａ．誤　ｂ．正　ｃ．誤　ｄ．正

第４章

問 87（※解説のみ修正）

法第 44 条第 1 項及び第 2 項、第 50 条並びに第 51 条の規定に基づく医薬品の法定表示事項として、誤っているものはどれか。

1. 製造販売業者等の氏名または名称及び住所
2. 製造番号または製造記号
3. 配置販売品目にあっては、「配置専用」の文字
4. 指定第二類医薬品にあっては、枠の中に「２」の数字

第５章

問 118

「使用上の注意」の「相談すること」として、「次の症状がある人：排尿困難」が記載される成分の組み合わせはどれか。

ａ 合成ヒドロタルサイト
ｂ メタケイ酸アルミン酸マグネシウム
ｃ ジフェニドール塩酸塩
ｄ スコポラミン臭化水素酸塩水和物

1. （ａ、ｃ）
2. （ａ、ｄ）
3. （ｂ、ｃ）
4. （ｂ、ｄ）
5. （ｃ、ｄ）